

碩 心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩 心 会 発行

59年9月現在 会員数
逗子地区 172名
葉山地区 297名
大船地区 63名
(合計) (532名)

59年9月号(146号)
発行 者 根 岸 岳 萃
編 集 中 村 愛 岳

私のあゆみ

風早支部 中村 憐 山

風早教室を作るからとのお誘いを受けて吟をはじめたから、早いもので七年も経ってしまいました。私は歌を唱っても調子が外れ、音痴の部に入るのではないかと思っておりますので、吟も、出来るのかどうか不安な気持ちで参加しました。

初回の練習にはどうしても調子がとれず次の練習日まで、これでは困ると思ひ、大きな声を出して何度も同じ事をやっておりますと、家族からは騒音だと評されました。何度声を出してもどうしても音程がつかめず、泣きたい程悲しい思いも致しました。今日まで落伍する事なく歩んで来られたのは、良き指導者・先輩・同輩に恵まれたからと感謝しております。今七年間を振り返ってみますと、査定の時など、ふるえが止まらず困った事、直前になって詩文を思い出せずあせった事など、赤面する事ばかりです。又合吟コンクールに初めて出場して優勝、二度三度と優勝を重ねた感激は忘れられません。

生来の悪声はどうする事も出来ず、加えて勉強不足で詩の心をつかみ得ず、単に声

を出しているだけの様で、近頃落ちこみですが、来春には奥伝の査定を受ける予定です。初心に返り練習に励みたいと思っております。

◎ 秋季審査会のお知らせ

とき 9月30日(月) 10時開演

ところ 逗子図書館ホール

審査料 少年少女・高令者一五百円

その他一般一七百元

◇ 審査料は支部毎にまとめ、なるべく早めに納めて下さい。

◇ 許証料は十月十日までに

◇ 中村幸岳、又は広瀬翔風先生方へ。

許証部長 中村幸岳

重陽の節句

九月九日は重陽の日。菅原道真の「九月十日」の詩の、去年の今夜清涼殿に侍したというのはこの重陽の日で、昔は陽(奇数)の重なる三月三日、五月五日、七月七日と並んで、二千年も前から中国での行事で、古くは日本でも行われていた。旧暦を用いていたので重陽は「菊の節句」ということでもある。

北京・成都・西安・上海

八日間の旅

逗子A支部 村田 澗 風

8月18日・集合地横浜より私達四十四名を乗せたバスは成田に向いました。漢詩発祥の地はどんな処かと思いをめぐらせ、一路北京に飛びホテルに着きました。

8月19日・待望の万里の長城は日曜日とあって、観光客や地方から出て来た人達で蟻の行列の様な有様で、せまい入口ではおし合いの大さわぎ、そこから引きかえした方もおられ、私達はやっと頂上まで登ることが出来、思わず根岸先生のおはこ「万里の長城で……」を思い出し、雄大を眺めは痛快なものでした。

明の十三陵の定陵を見学、五百年も前に六年の歳月をかけて作ったといわれ、すべて大理石で、そのスケールの大きさにおどろくばかりでした。

北京の中心街は道巾120米もある大通りで自動車は殆んど見かけることなく、自転車で行く人達の間をバスが遠慮しながら走って行く有様でした。

8月20日・北京のシンボル天安門広場・毛主席の記念堂には棺が安置され、お詣りする人の列が長く続いていました。

故宮は中国の古代建築の中で最大の規模を持ち、明清の皇帝の威厳の程をしるべます。

天壇公園は皇帝が五穀豊穡を祈願した処です。友誼商店で買物などして、成都へ飛行機で二時間、ガイドは中国国際旅行社の人で、日本語はペラペラ、笑談などまじえながらの上手な話に聞き入りました。

8月21日・パンダの故郷成都では、パンダ動物園に行き、写真を撮られるのが恥かしいのか、良いポーズはとってくれない様でした。レッサムパンダ(黄色)金毛ザル(黄色)などが私達を歓迎してくれました。宝光寺には唐代の五百羅漢明代の舍利塔が残っている。

午後杜甫草堂へ。中国側は有名な書道家、画家、作詩家、学院の先生などが二十人余りも来て下さり、日中友好詩吟交換会が盛大に行われ、1.各有名人の紹介と挨拶、2.常盤先生挨拶、3.毛利・大森両先生連吟の春望、4.加藤先生貧交行、5.一同合吟富士山、6.中国の方自作の詩朗誦、昔峨媚山と富士山は親しかったのを、天の神が分けてしまったが、今天上の人が二国の人が交換して詩吟を吟ずる様命じた……という様な意味のもの様でした。7.楓橋夜泊朗誦、8.皆様を歓迎する意の自作の詩、9.歓迎の自

作、10.杜甫の詩朗誦、11.常盤先生の寒梅、そして双方感謝の意を表して終った。其の後書道家が朗読した自作の詩や、富士山の詩をすばらしい字で書いて私達に贈って下さいました。

8月22日・武侯祠は三国志で知られた諸葛孔明を祀った寺で、豪傑の関羽、怪力の張飛などが従っている。

西安に向う。此の地がシルクロードの出发点となり、三蔵法師がインドから持ち帰った経典を収める為建てたといわれる大雁塔・小雁塔があり、七階の頂上まで登ったホテルに着き夜は市内の散歩をした。

8月23日・陝西省博物館を見学。西安碑林では秦代から清に到る一〇九五個の石刻の碑が集められていた。

井戸堀の作業中発見された兵馬俑、新聞や写真では知っていましたが、規模が大きく、まだ一部しか発掘されていないが、六千体位の兵馬が埋まっていると……まず眼前に見た者だけが味わう感動ではないかと思えます。

四国四県からの浄財で建立中の空海を祀ったお堂が近日出来上り、九月には多くの僧侶が日本からも行つて落慶の式があるとのこと。阿部仲麿が日本に帰り度くても帰ることが出来ず、とうとう此の地で五十四

年を過し、望郷の想いを歌った「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも」の碑を見た時、思わず声を出して天の原……と吟じてしまった。これが本当の詩の心を吟じるんだと思った。

華清池・古くからの温泉保養地で、玄宗皇帝が遊んだ所、揚貴妃が入浴したと言われるお風呂が、新しいタイル張りだったのにはガッカリした。

8月24日・朝五時起床、上海に飛ぶ。玉仏寺は、ヒスイで作られた2米の座像で、国宝になっています。その他木版印刷された大量の仏經典が納められていました。

南京路でショッピング、ガーデンブリッジを渡り、昔日本人が住んでいた虹口に入る。四十年前五年間住んだ我が家の面影をキョロキョロしたが、終にそれらしいものは見つからずガッカリしましたが、黄浦江の黄色い水の色、ガーデンブリッジ、ブロードウェイマンションだけは今も昔のままであつたかしい想い出にひたりました。

8月25日・上海空港より成田に向う。やっと自宅に着いて喰べた真白い御飯、水道の水のおいしかったこと、外国へ行ってあらためて日本の美しさ、すばらしさを再認識することが出来ました。平和な毎日を感じせずにはいられません。「百聞は一見に

如かず」とか、又機会があれば御一緒に参りましょう。お世話になった皆様、有難うございました。

逗子の海辺を

北から南へ

小祠より漁村に通う一条の道あり
路は絲のごとく絶壁を截つて通ず
上は懸崖下は海

一步誤れば海底に遂ぐる

断崖 断崖 断崖多し

人生到る処この断崖多し

(徳富蘆花、自然と人生より)

本部長常盤岳湘先生が好んで吟じられる詩の一つで、昔の小坪浜周辺の風景が彷彿と思ひ浮ぶこの詩は私も好きです。逗子八景の一つ「小坪の帰帆」として有名だった小坪浜の景観は今はずっかり変貌してしまつた。浜も大分埋め立てられ陸と化して、マンションが建ち、のどかな海辺の風情は失なわれた。

海沿いを南に歩をすゝめると、披露山公園の麓に朱塗りの堂、白滝山高養寺がある。やはり逗子八景の一つ「不動の落雁」といわれた所で、寺伝には弘法大師が開山したといわれる。現在の堂は葉山慶増院の建物

を昭和二十八年に移したものである。明治時代、徳富蘆花の書いた小説「不如帰」の舞台として有名になり、ヒロイン片岡浪子にちなんで「浪不不動」と呼ばれるようになり、昭和八年には兄蘇峰の筆で、堂前の礎に不如帰の碑が建てられた。

静けさをとり戻した波打際を南にそぞろ歩くと左側になぎさホテルが目に入る。炎熱の夏は去りて秋風来る 風は清し湘南逗子の渚……大野孤山先生作の「舟艇守の尺八」はこのあたりを舞台に、まさに今頃の季節に出来たものであり、それに加えて松井岳洋先生の韻読調で吟ずるこの詩は、私達地元愛吟家にはよく縁の深い詩です。先生の「吟の道を求めて」の記事の中にこの韻読の事にふれられています。あの浪子不動先の岩場で夜毎吟の修練に励み、あの韻読調もそこでまとめられたとか。

海近くの富士見橋を渡ると、「家は十坪に過ぎず、庭は唯三坪……」の自然と人生「吾家の富」の舞台となった蘆花の邸跡がある。つい最近蘆花記念公園となり、逗子郷土館が出来、蘆花ゆかりの品々が展示されているとか。そこからのもの百米もゆくともう葉山。そして切通しを通り抜けると森戸の浜へ通じる。

練吟メモ

。漢詩に接するものの常識として、「漢詩の作り方」をほんのちょっとだけ承知しておいて頂きたい。それがまた漢詩を読むうえにおいても、鑑賞するうえにおいてもなにかと役に立つことと思うから。ただし今回は、漢詩構成上基準となる点を掲げるにとどめ、作り方までには及ばない。

。漢詩と一口に言っても、前にお話ししたとおり、時代とか、形式によっていろいろな種類がある。しかし、日本で漢詩を作る場合は、むかしから「唐詩」を対象とし、基礎とし、そして手本として来た。その理由は、唐詩は中国文学の精華といわれるばかりでなく、世界の文学の中でも最高水準にあるという、高い評価を得ている詩形であるからである。従って、われわれが漢詩を作ろうとするならば、唐詩をこそ学ばべきだということまで今日に至っている。

。漢詩を作るに当っては、極めて細かい制約がある。この制約を果さないで「漢詩」にはならないことになっている。ただ格好よく漢字や熟語を並べただけでは、それは漢詩とは言えないということである。漢詩を造るうえの制約(きまり)として

その主なものを挙げると、

1. 吟詠する者誰もが承知のとおり、例えば絶句の場合、起・承・転・結の四句で構成される。

2. 絶句の場合、一句の切れかたの原則は四句ともそれぞれ次のとおり

五言は 二字・三字

七言は 二字・二字・三字

この原則を知っておくと、読みや解釈にひとつの有力な手掛りとなる。

3. 押韻(おういん)を必要とする。

「脚韻」(きゃくいん)とか、「押韻する」「韻をそろえる」「韻を踏む」などという。重要な制約事項である。

4. 平仄(ひょうそく)の配置に一定のきまりがある。これが厳守されないと「正格」の作品とみなされない。平仄とは、使う一つの漢字が平声(ひょうせい)であるか、仄声(じつせい)であるかにより、字配りに制約がある(面倒かつ重要な制約事項)。

。漢詩の実作は、面倒臭さや、むづかしさが伴い、一詩作り上げるのは大変である。一字一字が十分吟味され、仕上げられるものであるから、完成すれば作者にとっては貴重な創作品となる。

(訂正)

8月号碩心会寸評中、西岡玉風とあるは江風の誤りに付訂正します。

(入会)

659 齊藤俊子 逗子市桜山六一一六一二二

(葉月) (電)〇四六八七七一一九二三

660 鈴木正 逗子市逗子六一四一二九

(葉月) (電)〇四六八七三三四九七三

661 大野波江 逗子市久木八一六一二

(逗子A) (電)〇四六八一七三一九二二六

ロサンゼルスオリンピック、全国高校野球と、今年の夏は長く、華やかで、暑かった。しかし甲子園から汗と土にまみれた真っ黒な顔の球児たちが去り、日本列島に立ちこめた歓声が消えると、さしもの熱気もみるみるあせていった。

今年暑さが殊の外きびしかったが、目にはさやかに見えねども、ようやく風の光の空の色にもどことはなしに秋の気配が感じられるようになり、ホッとひと息。あすは森戸明神のお祭……寸づまりになった孫ちゃんのあげをなおしながら、おばあちゃんの伴せを満喫、「翔んでる女」と見られる一面もあるようですが、又古い型の女でもある私です。